

# リスク管理

緊急時企業存続計画  
(Business Continuity Plan)BCP)は、当該企業の業種、体力あるいは取り巻く社会環境に応じたものでなければならぬ。

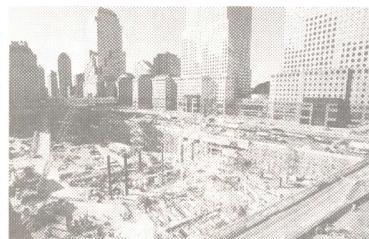
△

そもそもBCPが、国際的に大きく注目されたのは、ニューヨーク9/11事件であった。事件に巻き込まれた銀行、クレジット、証券会社等の金融機関では、コンピューターシステムの停止により、即座に企業活動停止状態となつた。また、一旦失われた情報の回復には多大な時間・費用を要することとなつた。企業は多大な損失を被ることとなり、その影響で倒産に追い込まれた企業も出てきたことで如何なる

## リスクマネジメント

**A B C**

## 緊急時企業存続計画(BCP)



# 業種・体力に応じて策定

る状況においても事業継続をすることの重要性を改めて社会に認識させることが出来た。

さて、リスク対策として、通常、リスク回避(Risk Avoidance)、被害軽減(Loss Prevention)、他者転換(Risk Transfer)、いう対策を採つた。これら

のような企業では、どのようなときでも情報を喪失することなく事業を継続させるための対策が求められる。

一方、一時の事業中断が重大とはならないものの、それが長期化すると深刻化するという事態を、わが国でも経験した。中越地震において工場の長期操業停止を余儀なくされ企業存続に深刻な影響が出た事例である。これを機にわが国で

はリスク対策の中でも最もBCPの重要性が認識されるようになつた。この回避手段を予め講じれば万が一被害を受けておくものである。9/11事件後、ニューヨーク市に情報センターを持つ会社が、フィラデルフィアやダラスに同種機能のバックアップセンターを持つことである。前述した金融機関等の機能のバックアップ・複数化という、リスク回避(Risk Avoidance)の対策とは異なり、いわば深刻な状況にならない程度の被害レベルにとどめるための対策を講じておくことである。リスク対策の一つ被害軽減(Loss Prevention)という対策である。このように事業継続のための対策は、自らの体力、事業特性などに応じて適切に策定しなければならない。